HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	職場・業務紹介 附属植物園
Author(s)	稲川, 博紀
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 1, 59-59
Issue Date	1994-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35273
Type	departmental bulletin paper
File Information	1_p59.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

稲川　博紀（高山植物・灌木園・湿生植物園担当）

◆職場紹介

昭和６３年に植物園庭園係に採用されたが、「大阪花と緑の博覧会」のための委託研究に２年間従事した後、本務の庭園管理に就いた。昨年から湿生園を担当、来年から高山苗圃の整理・データ管理の方もやって行きたいと思います。

◆仕事内容

維持管理として、芝生への施肥は春と秋の２回、芝刈りは年１５～１６回で夏の最盛期には週１回のペースで刈高約５㎝、春は月に２回刈高約３㎝、秋は月に１回刈高約３㎝を基本に閉園日にやるようにしています。雨が降ったり、他の仕事が忙しかったりして出来ない時は次の週に廻しますが、この場合、芝が結構伸びてしまっているので、刈った後１日おいて刈り芝を集めるようにしています。また、夏の乾燥期にはスプリンクラーを設置して散水し乾燥を防ぎます。垣根刈り（温室中庭、バラ園、苗畑）は年に３～４回、ライラックの花柄取りや剪定、樹木等の剪定・整枝、春と秋には落ち葉集め、冬囲いなどを行っています。また、作業機械などの管理、メンテナンスもしています。

湿生園は、ここ数年手がつけられなかったために消えてしまった植物や、増えすぎてしまった植物があり、荒れている状態でした。そこで、園内での湿生園の役割りも含めた見直しをかけ環境整備から始め、Carex rhynchophysaなど、はびこってしまった物を抜き取り、Iris、Spiraea、Polygonum など園内にある物、または採集してきた物を移植しました。また、具体的な植栽計画を立て、種類数を増やしていき植物園独自の湿生園を作って行けたらと思っています。

植物登録管理チームの一員としてデータの入力、管理も行っています。

◆施設、設備、面積等

湿生園　2,600㎡　芝生　26,450㎡　灌木園　3,600㎡

◆悩みや困っている事

現在、一般の維持管理や各分科園の整備に手間がかかり、自分の計画を実行しようとしてもなかなか時間が取れず、計画倒れになっています。これから、各担当者が分科園事に綿密な計画を出し、話し合い試験研究の方に力を入れていきたいところです。

◆今後の方向または希望

植物園の中で最も重要である高山植物苗圃。現在、高山苗圃は植物名、原産地、導入年月日などのデータが解らなくなった物も多数あり、これらの見直しが必要になってきています。担当者と協力して登録管理されているデータと比較しながら整理を行ない、稀少植物・絶滅危惧種（主に北海道に生育する野生植物）の保護や繁殖法の確立に今以上に力を入れていきたいと思います。